

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100228		
法人名	有限会社なんくる		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームたけとんぼ		
所在地	那覇市国場911-2		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100228-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成27年 1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が家族様と外食できるように支援したり職員は他施設と交流して認知症利用者との関わり方等の違いを学び質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の方が気軽に立ち寄り、毎週金曜日三線や琉球舞踊の有償ボランティアを受け入れている。また、小学校、中学校、高校生の体験学習の場として提供している。食事の準備やおやつ作りは、材料の買い出しや野菜の下ごしらえ、配膳や下膳など入居者一人ひとりの力に合わせ職員と一緒にやっている。週1回ドライブを計画し、買い物や外食(ホテルのランチバイキング)など、個別での外出や季節に合わせた外出では(初詣、秋の遠足)など入居者全員で出かけている。母の日には女性の入居者全員にネイリストによるネイルを行い、父の日には男性の入居者で外食を行っている。事業所の共有空間では入居者の居場所作りを考え、テーブルやソファの配置を工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 27年 2月25日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示や名札に理念を表記し実践させている	法人の経営理念と経営方針を事業所の理念としている。理念は掲示し名札にも挟み、職員はミーティングや新任職員オリエンテーション時に確認している。管理者は、事業所独自の理念を職員と話し合い作成する予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会等と交流は出来てないが地域住民が事業所に足を運んでくれるようになっていく	近所の方が、散歩コースとして立ち寄ってくれる。毎週金曜日、三味線や歌のボランティアを受け入れている。地区の祭りに利用者と一緒に参加している。体験学習として、地域の小中高校生を受け入れるなど地域交流の取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来てない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催してホーム内の状況報告や転倒などの事例を報告してアドバイスを受けてサービスに活かしている	推進会議は行政が毎回参加し定期的に年6回開催しているが、利用者、家族の参加がみられない。また、前半は地域代表も参加していたが、ポイント制度の事で負担に感じられたのか、欠席が続いている。会議は現状報告やヒヤリハット、事故報告を行い、委員からも活発な意見が出されている。	運営推進会議は事業所の運営にとって重要な位置づけであるので、入居者、家族、地域代表の参加を積極的に促すことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所のケアサービスの取り組みを伝えている	市グループホーム連絡会に参加し情報交換している。電話で事業所の指定更新について問い合わせたり、生活保護の方の金銭面についてケアマネジャーが窓口訪問し確認している。研修やキャラバンメイトの実施について情報提供を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義を掲示板に貼って身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針で入居時に家族に説明している。玄関等は施錠はなく外に出る入居者は、職員がついて見守っている。職員はミーティングでマニュアルの読み合わせを行っている。言葉による行動制限については、その都度職員に伝えている。	

沖縄県(グループホームたけとんぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体観察に注意を払い防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを設置及び契約時に説明等を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とコミュニケーションを取り意見交換をしている	家族からは面会時や年1回の家族会の中で意見を聞く機会としている。重度化になった時の対応について意見があり説明している。入居者からは、日頃の生活の場面で意見を聞いている。外出の要望が多く、近くのコインランドリーに職員と一緒に出かけたり、ドライブで外出する機会を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月社長や職員ミーティングを行い意見交換をしている	毎月の職員ミーティングで意見を聞く機会としている。職員から通勤手当を出してほしいとの意見を、管理者は毎月の社長との会議で報告し、通勤手当を出してもらった。職員から物品購入の依頼があり、冬場に使用する脱衣所のヒーターを購入している。法人内の異動はない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を集め知識や技術向上に努めている		

沖縄県(グループホームたけとんぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加して情報交換や交流に取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に傾聴したり要望を受け止め安心できる関係に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時に日常生活を説明して信頼関係を築けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体の変化にいち早く気づき医療との連携や受診の際必要とする支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図り要望を傾聴し受け止め信頼関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化を報告して連携や協力し合い利用者を支えて行けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めているが出来てない	今までの馴染みの関係などは、本人や家族から情報を聞いている。誕生日やお祝い事の時に教え子が面会にきてくれる入居者もいる。馴染みの天ぷら屋さんに出かけて天ぷらを購入することもある。管理者は入居者の郷友会への参加も検討したいと考えている。	

沖縄県(グループホームたけとんぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席配置を変えたりして利用者同士が楽しめるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会や電話連絡をして相談に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から情報を集め意向に合うように努めている	入居者の要望で、「おそばが食べたい」「三枚肉が食べたい」などには、食事のメニューに取り入れたり、外食することもある。喫煙も認めている。家族からお掃除好きだったとの情報で、ほうきを使い一緒に床掃除を行うようになった利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族から情報収集を行い理解できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士申し送り等で情報を共有して現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い主治医の意見を踏まえ三者で意見を話し合い現状に即した介護計画を作成している	担当者会議は、本人、家族、ケアマネ、担当職員が参加し3ヶ月毎に行っている。モニタリングや計画の見直しは3ヶ月毎、状態が安定している場合は半年毎、状態の変化がみられる場合はその都度行われている。入居者の毎日の日課や役割について個別のプランを作成している。業務日誌への記録も確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りを通して職員間で情報共有しながら計画の見直しに活かしている		

沖縄県(グループホームたけとんぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に出来るだけこたえるように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや八百屋に買い物に出かけるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康チェックのデータや日常の生活状況を説明している	利用者は希望のかかりつけ医を継続して受診し、2名が訪問診療を受けている。訪問診療以外は、認知症専門医等、他科受診も含め家族対応としている。受診時は、情報提供書を家族に渡し、結果は返書で受ける他、電話等でも確認し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の変化に応じて相談し支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院関係者と情報交換をし退院に向けた支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から関係者で話し合いを行い今後の対策について情報を共有し支援に努めている	重度化や終末期に向けては、事業所として「医療行為が生じた場合は、対応しない方針」を職員間で統一しているが明文化はされていない。入院等状態変化に応じ、家族や主治医と連携しその都度相談して行く事とし、時折家族から質問があった場合は口頭で説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加させ実践力を身に付けるように努めている		

沖縄県(グループホームたけとんぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回昼夜想定訓練を防火管理の指導の下に行っているが、近隣の協力は得られていない。	年2回消防署に届け出、夜間を想定した火災避難訓練を実施しているが、地域住民の参加は得られず、記録も整備されていない。防災設備の点検実施や食料・生活用品の備蓄は確保されているが、マニュアルは災害の種類や役割分担、連絡体制等、確認や見直しが行われていない。	災害訓練終了後は、記録を整備し次回へ活かして行く事や訓練への地域住民の参加に向けた協力体制作りが望まれる。また、あらゆる災害に対応できるようマニュアルの見直しに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシーを尊重し対応している。	「人格の尊重」については、契約書に「入居者の権利」を明示し、職員研修として「倫理やプライバシー保護マニュアル」の読み合わせを継続して実施されている。職員の不適切な対応や言葉遣いがある場合は、副主任がその場で注意し、ミーティングでも改善に向け情報を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出したいとの訴え時等、できる範囲内で対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	能力に合わせて、個々で活動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回、散髪支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、もやしのヒゲ取りなど職員と一緒にやっている。	食事は利用者の要望を取り入れた献立を作成し、三食当番の職員が調理している。利用者は食材の買い物や下ごしらえ、配膳等に参加し、職員と一緒に同じ食事を摂っている。天気の良い日や誕生日の夕食の他、月1回、法人からの配食を検討する等、食事を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好きな食べ物や飲み物等の情報収集を行い、状況にあった量や形態にて支援している。		

沖縄県(グループホームたけとんぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状況に合わせて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員間にて共有し、トイレにて排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表や観察を通して、排泄パターンを把握し、日中は全員、トイレでの排泄を支援している。個別プランに見守りや声掛け等、一人ひとりの力に応じた自立を位置付けて支援している。また法人内施設と連携「オムツ外し」の勉強会に職員が参加している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便ペースを考慮し、下剤や看護師に相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせて、支援している。	入浴は週3回午前の支援を基本としているが、利用者の状況や意向に添って柔軟に対応している。入浴を拒否する場合は髭そりを勧める等、声掛けを工夫している。同性介助は、希望する利用者には対応している。入浴や準備も、できる事は本人にしてもらうよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があれば、申し送りなどに記入し情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みに合わせて、楽しめるように支援している。		

沖縄県(グループホームたけとんぼ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の誕生日など、家族と協力し外出支援やドライブを行っている。	利用者は日常的に事業所周辺を散歩し買い物等に出かけている。天気の良い日は、ドライブや外食を楽しむ他、年間行事で初詣や母の日のボーリング大会、秋の遠足で観光施設に出かけ、気分転換を図っている。個別には、家族の協力の下誕生日の外食や外泊等が支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に声掛けを行い、家族へのプレゼントの購入などの支援をいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応できるように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共有スペースに写真や塗り絵などの作品を提示し、居心地のいい環境作りをしている。	共用空間は感染症対策に加湿器等を設置し、換気や採光にも配慮され、季節の飾りも施されている。テレビの前には、利用者が思い思いに寛げるようソファを配置している。また外気浴やお茶会等が楽しめるように庭やデッキには、ベンチやテーブル等が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスなどを共有スペースに設置し、思い思いに過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や、自宅にて使用していた家具などを使用し、居心地よく過ごせるように支援している。	居室はベッドや収納設備が整い、室温管理に配慮し温度計を設置している。利用者はタンスや椅子、姿見等、馴染みの家具を持ち込む他、壁には家族や本人の写真、時計、カレンダー等を掲示し、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに手すりを設置し、安全に自立できるように支援している。		